鰺ヶ沢町
地震ハザードマップ

■地域の危険度マップ

N

1:30,000

0 1,000 2,000 3,000 メートル

釣町区域防災公園（天童山公園）施設
山村開発センター
鰺ヶ沢保育所
鰺ヶ沢町役場
中央公民館
西海小学校グラウンド
西海小学校
勤労青少年ホーム
勤労者体育センター
鰺ヶ沢第二中学校
鰺ヶ沢第二中学校グラウンド
鰺ヶ沢第一中学校
鰺ヶ沢第一中学校グラウンド
舞戸公民館
舞戸小学校グラウンド
舞戸小学校
鰺ヶ沢駅
北浮田集会所
南浮田農業センター
JR五能線
鳴沢駅
鳴沢公民館
鳴沢小学校町営野球場
鳴沢小学校
鳴沢農業実習センター
赤石公民館
陸奥赤石駅
赤石小学校グラウンド
赤石小学校
中下農村婦人の家
中村公民館
中村小学校グラウンド
中村小学校
中村保育所
浜横沢生活改善センター
小ノ畑生活改善センター
南金沢生活改善センター
南金沢小学校グラウンド
南金沢小学校
小森林業センター
一ッ森林業センター
（旧）一ッ森小学校
（旧）一ッ森小学校グラウンド
（旧）深谷小学校グラウンド
（旧）深谷小学校
芦萢へき地保健福祉館
（旧）芦萢小学校グラウンド
（旧）第二松代分校グラウンド
（旧）第二松代分校
アグリビジネスホール
建石小学校グラウンド
建石小学校
山田野集会所
（旧）山田野分校グラウンド
（旧）長平小学校グラウンド
長平生活改善センター
長平青少年旅行村大型研修棟
国道101号
国道101号バイパス
JR五能線
山田鰺ヶ沢線
弘前鰺ヶ沢線
岩木鰺ヶ沢線
鰺ヶ沢深浦線
弘前鰺ヶ沢線
日本海

■ゆれやすさマップ

○ゆれやすさマップとは

ゆれやすさマップは、鰺ヶ沢町直下の地震（規模：マグニチュード6.9）が発生した場合、町域で想定される震度分布を色分けして表示したものです。

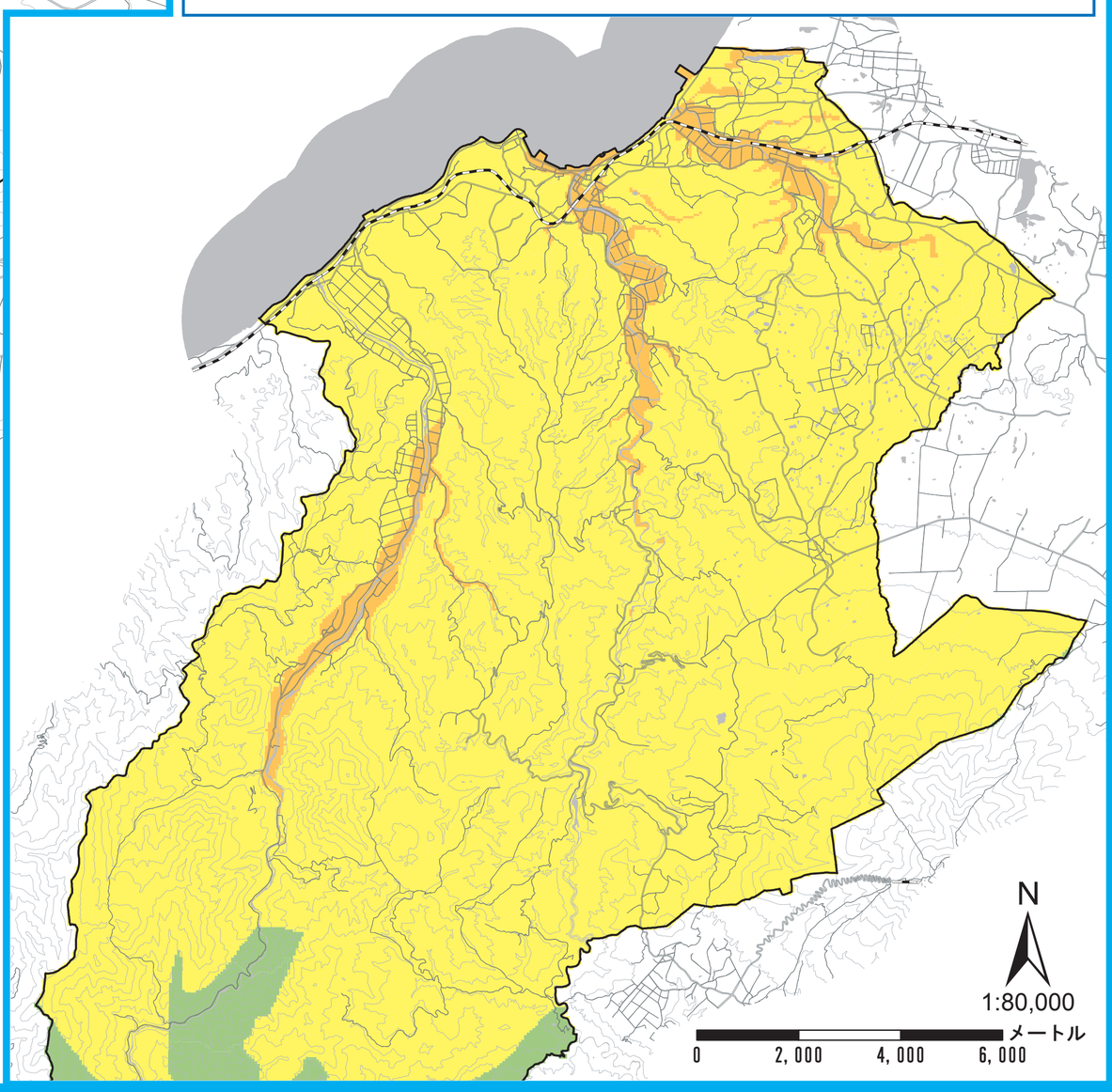
なお、想定地震は、内閣府防災担当「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月）に基づき設定しています。

ゆれやすさ

震度階級

震度６強　震度６弱　震度５強

強 ← → 弱



凡　例

———	行政界
◎	鰺ヶ沢町役場
———	道路
——▭——	鉄道・駅
———	第１次緊急輸送道路
———	第２次緊急輸送道路
●	避難所

地域の危険度

表示	ランク	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
	危険度 ５	10%以上
	危険度 ４	５%以上10%未満
	危険度 ３	２%以上５%未満
	危険度 ２	１%以上２%未満
	危険度 １	１%未満

○地域の危険度マップとは

地域の危険度マップは、地震の揺れによって発生する可能性のある建物被害の大小の程度を危険度として表したものです。想定した揺れの大きさと、５０ｍメッシュ内の建物の分布状況により、過去の地震被害による経験式から全壊被害を生じる建物数をもとめ、メッシュごとにその棟数割合を5ランクに分類しました。地域の危険度ランクはその数値が大きくなるほど、地震による建物被害を受ける可能性が高くなります。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号　平成22業使、第389号）

保存版

鰺ヶ沢町
地震ハザードマップ

■緊急時の連絡先　～いざという時の連絡先～

連絡先	電　話
鰺ヶ沢警察署	0173-72-2151
鰺ヶ沢消防署	0173-72-2710
鰺ヶ沢町役場	0173-72-2111
鰺ヶ沢町立中央病院	0173-72-3111

■安否情報の確認　～災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使い方～

地震などの災害時には、一般電話などがつながりにくくなります。災害時に家族や知人の安否確認ができるよう、非常時の連絡方法を覚えておきましょう。

○災害用伝言ダイヤル「171」

伝言の録音

1 7 1 → 1 → 被災した家の電話番号 → 伝言を入れる（30秒以内）

ガイダンス（説明）がながれます。

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言の再生

1 7 1 → 2 → 被災した家の電話番号 → 伝言を聞く

ガイダンス（説明）がながれます。

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

○携帯電話の災害用伝言板

「な が れ」

「伝言板にアクセス」⇒⇒「登録」

au(KDDI)
NTT ドコモ
ソフトバンク
WILLCOM(ウィルコム)
→ トップメニュー → 災害用伝言板

※災害時（震度6弱以上の地震など）に開設されます。
※毎月1日、正月三が日、防災週間、防災とボランティア週間には、体験利用ができます。使い方を確認しておきましょう。

平成22年11月
青森県鰺ヶ沢町

■ハザードマップとは

○地震ハザードマップとは

地震ハザードマップは、地震発生時に予測される震度分布図に、避難場所などの防災に関する情報を表したマップです。自宅や学校、職場などで予測される震度や災害時の避難場所、家の安全性などを確認し、防災対策に役立てましょう。

○地震ハザードマップを利用して防災意識を高めよう！

巨大な地震が発生すると建物が倒壊する被害が発生するだけではなく、その建物や家具の下敷きになるなどの人的被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインが寸断され、火災が発生するなど、大きな被害に発展する恐れがあります。阪神淡路大震災では、犠牲者の約８割以上が住宅などの倒壊による圧死といわれています。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。地震に備えるためには、地域で発生する恐れがある地震、建物被害などの可能性を充分に理解し、防災に対する意識を高めることが重要です。

○地震ハザードマップの内容

ゆれやすさマップ

「ゆれやすさマップ」とは、鰺ヶ沢町の直下を震源とする地震（地震の規模：マグニチュード6.9）が発生した場合に、町内各地域の地盤の状況から、地域の地盤の地表の揺れやすさを震度として評価し、50mメッシュ単位に表示した地図です。なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地表の揺れはこの地図に示した震度より強くなったり弱くなったりすることがあります。

なお、想定地震は、内閣府防災担当「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月）に基づき設定しています。

1983年（昭和58年）5月26日正午、本町の西南西約100ｋｍの日本海で、マグニチュード7.7の「日本海中部地震」が発生しました。深浦で震度５の強震を観測するとともに、津波が日本海沿岸へ襲来しました。本町でも、地震発生後15分後には津波が到達し、２ｍを越える最大水位が記録されています。本町の沿岸部ではこの津波による大きな被害を受けましたが、地震のゆれそのものにより顕著な建物被害を生じた地域は、地盤の悪い土地や傾斜地などに限られました。これは、地震の規模（マグニチュード）は大きいものの、本町が震源からやや離れた位置にあったためです。

「ゆれやすさマップ」では、日本海中部地震とは別に、本町により大きな影響を与える可能性がある本町の直下を震源とする地震を想定し、この地震が発生した場合の震度分布の推計を行いました。

地域の危険度マップ

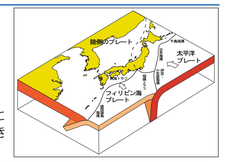
「地域の危険度マップ」とは、「揺れやすさマップ」で示された地域ごとの震度と、建物の構造（木造・非木造の別）及び建築年次別の建物棟数の推計結果と、過去に生じた地震による各地の建物の被害状況に基づく経験式から、50mメッシュ単位でメッシュ内の全壊する建物の割合（全壊率）を算出し、それを５段階で地域の危険度として示したものです。この危険度が高い地域ほど、相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。

なお、実際には、地震に対する建物の強さは、個々の建物によって異なります。そのため、危険度が高い地域であっても、耐震性の高い建物は倒れにくく、反対に危険度が低い地域であっても老朽化の進んだ建物はより倒壊の危険性が高くなります。特に建築されてから年数が経過した古い木造建物は、地震に弱い傾向がありますので、危険度が低い地域であっても、充分な注意が必要です。古い木造建築にお住まいの方は、耐震診断を受け、必要な場合は耐震改修工事を行うことをおすすめします。

■地震の知識①

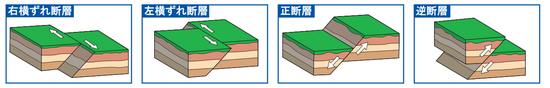
○地震の起こるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「活断層地震」と「海溝型地震」の２種類に分けられます。



活断層地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることでひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



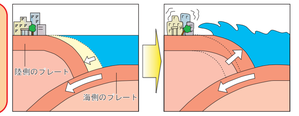
海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。

「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は、年間数ｃｍの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

【震度とマグニチュード】

地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが１増えると、地震のエネルギーは約３２倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。



○震度と想定される被害～震度による人や建物、家具などへの影響～

震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	–	–
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	–	–
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	–
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5 弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物が、倒れることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5 強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

資料：「気象庁震度階級関連解説表」（平成21年3月31日改定）

■地震の知識②

○過去の地震被害　～青森県に被害を与えた主な地震とその被害状況～

青森県の周辺で発生する地震は、①太平洋プレートの沈み込み部分で発生する地震、②日本海沿岸沿いに発生する地震、③下方へ沈み込んだ太平洋プレート内部で発生する地震、④内陸部の浅いところで発生する地震などがあり、これまでもこうした地震により、多くの被害を受けています。

①のタイプの地震は津波を伴うことが多く、県内では1896年の明治三陸地震（M8.2）をはじめ、昭和43年十勝沖地震（1968年5月16日　M7.9）、平成６年三陸はるか沖地震（1994年12月28日　M7.6）等多くの地震による被害が繰り返し生じています。

②のタイプの地震としては、秋田・青森沖で発生した「昭和58年日本海中部地震」（1983年5月26日 M7.7）があり、津波、地震の揺れ、地盤の液状化現象などによって大きな被害が生じました。

③のタイプの地震としては、2008年（平成20年）７月24日の岩手沿岸北部で発生した地震により、県内で重軽傷者や住宅の損壊などの被害が多数発生しています。

④のタイプの地震は、1766年の津軽の地震（M7 1/4）があり、弘前以北の津軽平野で大きな被害を生じています。

年月日（旧暦年）	震央・主災地	被害概要
1611年12月2日（慶長16年10月28日）	三陸・蝦夷（M≒8.1）	大津波あり、伊達領で溺死1,783、南部、津軽で人馬溺死3,000余。
1667年8月22日（寛文7年7月3日）	八戸（M=6.0～4.0）	八戸地方強震、建物被害多し。
1674年4月15日（延宝2年3月10日）	八戸（M≒6.0）	同上
1694年6月19日（元禄7年5月27日）	能代（M=7.0）	地割れ、砂吹上げ、岩木山噴火(秋田能代領大地震、被害大)
1704年5月27日（宝永元年4月24日）	羽後・津軽（M=7.0±1/4）	家屋倒壊485、焼失759、能代～岩崎間死者58、海岸浅くなりて鯵ヶ沢で船痛損。
1739年8月16日（元文4年7月12日）	陸奥・南部	陸奥南部地方大地震、八戸家屋被害多し、青森でも蔵潰れる。
1763年1月29日（宝暦12年12月16日）	陸奥八戸（M=7.4）	津波あり、人家土蔵構梁破壊多数、諸川溢throughout田畑多数埋没、船流失20、堤防破壊。
1763年3月11日（宝暦13年1月27日）	陸奥八戸（M≒7 1/4）	余震やまず本日再び大強震、建物倒壊、全潰に恒し、惨状目に余る。
1763年3月15日（宝暦13年2月1日）	陸奥八戸（M≒7.0）	八戸地方再三強震、潰村に津波、人馬流失多数、4月まで余震絶えず。
1766年3月8日（明和3年1月28日）	津軽（M=7 1/4±1/4）	弘前領内で潰家6,940、焼失252、圧死1,027、焼死308、地鳴顕著。
1768年9月8日（明和5年7月28日）	陸奥八戸	八戸強震、家屋、頽newsと被害少なからず。
1769年7月12日（明和6年6月8日）	陸奥八戸（M≒6.0 1/2?）	殿中、諸士家被害少なからず、大橋落下。
1793年2月8日（寛政4年12月28日）	西津軽（M=6.9～7.1）	潰家164、半壊261、死者12、小津波あり、鯵ヶ沢・木造・金木被害大。
1848年1月13日（弘化4年12月8日）	津軽黒石（M=6.0±0.2）	猶賀～黒石通りで格別強く潰家あり。
1856年8月23日（安政3年7月23日）	日高・胆振・津軽・南部（M≒7.5）	弊有の強震、家中即村被害枚挙にいとまなし、潰村津波、浸水家屋多し。
1896年6月15日（明治29年）	三陸沖（M=8 1/4）	死者27,122、傷者5,451、家屋流失8,526、全壊776、青森県死者345、傷者211、八戸海潮位3m、余震多し。
1901年8月9日（明治34年）	青森県東方沖（M=7.2）	八戸～青森大地震、三戸郡被害大、全壊8、半壊615、死者18、小津波あり。
1933年3月3日（昭和8年）	三陸はるか沖・三陸海岸（M=8.1）	大津波、青森震度4、死者1,483、死者1,516、傷者659、家屋流失4,917、船流失1,597、青森県死者20、行方不明10、負傷者70、家屋流失151、船流失320、家屋倒壊320、破損312。
1945年2月10日（昭和20年）	青森県東方沖・県東部（M=7.1）	震度5八戸、4青森、3深浦、八戸地方屋根落、ガラス窓破損、家屋倒壊2、死者2など。
1960年5月24日（昭和35年）	南米南部（M=8.5）	チリ地震津波、太平洋沿岸大津波、全国で死傷者1,011、家屋被害46,214、その他被害甚大。青森県死者行方不明3、家屋流出全壊24、半壊91、船流失19、破損445、総被害額27億余円。津波最大振幅八戸318cm、青森159cm。
1968年5月16日（昭和43年）	三陸沖・青森県東部（M=7.9）	1968年（昭和43年）十勝沖地震、震度５八戸・田名部・青森、４弘前、３深浦、津波最大全振幅八戸159cm、死者46、行方不明2、負傷者671、建物全壊458、半壊1,745、全半焼16、船流失24、田地理災239haなど470億円の大被害。
1983年5月26日（昭和58年）	秋田県沖（M=7.7）	1983年（昭和58年）日本海中部地震、震度５深浦・むつ、４青森・八戸、大津波が西海岸一帯に来襲、死者17名、負傷者25名、全壊447棟、半壊865棟、一部破損3,018棟、床上浸水62棟、床下浸水152棟、被害総額518億14,956千円。
1994年12月28日（平成6年）	三陸沖（M=7.6）	1994年（平成６年）三陸はるか沖地震、震度６八戸、５青森・むつ、４市浦・天間林・六戸、３深浦、津波の高さ44cm、死者３名、負傷者688名、全壊55棟、半壊340棟、一部損壊7,020棟、被害総額993億50,546千円。

資料：「青森県地域防災計画（資料編）」青森地方気象台・県総務部防災消防課

■地震への備え／わが家の防災メモ

○被害を防ぐポイント

家の中の安全確認

・戸建住宅などの場合はできるだけ２階で寝るようにしましょう。
・家具には、転倒防止金具を取り付けましょう。
・部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
・テレビや置物などには、すべり止めを取り付けましょう。
・食器棚、本棚などは、とめ金具を取り付けましょう。

家の周囲の安全確認

屋根：不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておきましょう。
ベランダ：植木鉢などの整理整頓を。
窓ガラス：飛散防止フィルムを貼りましょう。
ブロック塀：ブロック塀はしっかり点検補強をしておきましょう。
プロパンガス：ボンベをしっかり鎖で固定しておきましょう。

○わが家の防災メモ

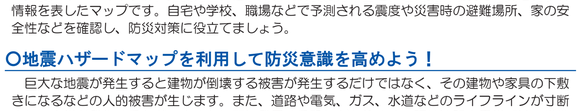
	名　前	電話(会社・学校・携帯)	メ　モ
家族・親戚などの連絡先			

メモ欄（その他連絡事項、避難所への行き方などを記入しておきましょう）

■地震時の心得①

○地震発生時の行動

地震発生時は、あわてず、落ち着いて、身の回りの安全を確認しましょう。



地震発生	2分	5分	10分	数時間	3日(時間の目安)
身の安全	火の確認	家族の安全	避難の準備	救出活動	避難生活
落ち着く！ 身を守る！ 火を消す！	出口の確保！ 周囲の火の点検！ 屋内でも靴を履く！	余震注意！ 家族の安全の確認！ ラジオを聞く！ 持出品用意！	災害時要援護者の安否の確認！ ガス栓閉める！ ブレーカー切る！ 行き先メモを玄関に貼る！	消火活動！ 救出活動！ 家屋の倒壊など危険があればすぐ避難！	非常備蓄品で自給自足！ 町の広報に注意！ 地域のみんなで助け合い！ ルールを守って避難生活！

◆いざというときの助け合い　～自主防災組織～

大規模な地震災害が発生した場合、身の安全を自分だけで守るのには限界があります。地震直後に発生する火災の消火や、瓦礫に埋もれた人の救出など、いざというときは、隣近所の協力、助け合いが大切です。

自主防災組織は、地域の方々がお互いに協力し、災害から自分たちの地域を守るために結成される組織です。地震は、いつ起こるかわかりません。日頃から、近所同士が少しでもコミュニケーションを深めておくことが大切です。

阪神・淡路大震災では、救助された人のうち、家族や近所の人などに助け出された人は約７割でした。大地震の直後は、消防や自衛隊が駆けつけられないこともあります。自分たちの地域は自分たちで守れるようにしましょう。

○避難時の留意点

避難時は、余裕に注意し、ケガをしないように落ち着いて避難しましょう。

火の元の確認
避難する前にもう一度、火の元を確認しましょう。

安全な服装
長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。

足元に注意
電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意しましょう。

階段から避難
避難時はエレベーターを利用せず階段から避難しましょう。

山崩れ、がけ崩れに注意
山間部で地震を感じたら、早めに避難体制を整えましょう。

安否情報を知らせる
玄関に避難先や安否情報を記したメモを張りましょう。

■地震時の心得②

○地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。

まず、周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで火が燃え広がったら「早く逃げましょう」。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

［消火器がない場合の火元別初期消火方法］

油なべ
水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをぬらして、火の手前からなべ全体にかぶせ、空気を遮断します。

石油ストーブ
上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたら毛布で覆ってから水をかけます。

衣類
転ばまわって火を消します。髪の毛の場合は、頭からタオルなどの布をかぶります。

電気製品
感電しないように、コンセントを抜いてから消火します。

カーテン・ふすま
天井に火が燃え広がる前に、水や消火器で消します。また、カーテンは引きちぎり、ふすまは倒して消火します。

風呂場（ガス式）
ガスの元栓を閉め、火の勢いが強くならないように扉を徐々に開けて消火します。

［地震保険について］

地震保険は地震や噴火、津波を原因とする火災、損壊、埋没または流失による損害を補償する地震災害専用の保険です。地震保険は、火災保険に付帯する方式での契約となり、火災保険への加入が前提となります。詳しくは、各損害保険会社の相談窓口または代理店にご相談ください。

○応急手当

地震時に多数の人がけがをした場合は、救急隊による救護が望めないことも考えられます。そのような事態に備え、適切な応急手当の方法を身につけておきましょう。

出血したとき
・傷口にガーゼや布を直接当てて、強く圧迫します。
・手足は心臓より高い位置に上げると血が止まりやすくなります。
・止血ができない場合は、傷口から心臓に近いところを、包帯などで固く結び圧迫します。

骨折したとき
・動かさないようにし、傷があれば止血・消毒します。
・添え木は身近なものを代用し、骨折部分の上下の関節を２カ所以上結んで固定します。

やけどをしたとき
・やけどをしたところをすばやく水で冷やします。痛みや熱を感じなくなるまで充分冷やします。
・服を着ている場合は、そのまま服の上から水をかけて冷やします。
・広い範囲にやけどをした場合は、ホースやバケツなどで水をかけるか、浴槽の水につかって冷 やします。

■耐震診断のすすめ

○家の安全性を確認しましょう！～誰にでもできるわが家の耐震診断～

地震の被害から命を守るためには住宅の耐震性を高めることが重要です。一般の木造住宅（１～２階）は下の表を使って簡易的に診断が行えます。

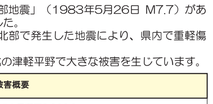
※近年新築されたもの以外の建物はぜひ診断して下さい。〔出典：（財）日本建築防災協会〕

	問　診	項　目	評点
1	建てたのはいつ頃ですか？ 【説明】 1981年（昭和56年）6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。1995年（平成７年）阪神淡路大震災において、1981年以降に建てられた建物の被害が少なかったことが報告されています。	建てたのは1981年(昭和56年)6月以降。	1
		建てたのは1981年(昭和56年)5月以前。	0
		よく分からない。	0
2	いままでに大きな災害に見舞われたことはありますか？ 【説明】 ご自宅が激しい震動のなかで、床下浸水・床上浸水・火災・扉の突入事故・家具の転倒・屋上開閉の故障などの災害に遭遇し、わずかな修理だけで居住できたことなどは、今見ては分からないダメージを蓄積している可能性があります。この混合専門家による詳しい調査が必要です。	大きな災害に見舞われたことがない。	1
		床下浸水・床上浸水・火災・扉の突入事故・大地震・屋上開地の崩落などの災害に遭遇した。	0
		よく分からない。	0
3	増築について 【説明】 一般的に新築してから１５年以上経過すれば増築を行う事例が多いのが事実ですが、その増築時、既存部の壁などを撤去・変更、増築部との接合をきちんと行っているかどうかがポイントです。	増築していない、または、建築確認など必要な手続をして増築を行った。	1
		必要な手続を省略して増築し、または増築を２回以上繰り返している。増築時、壁や柱を一部撤去するなどした。	0
		よく分からない。	0
4	痛み具合や補修・改修について 【説明】 お住まいになっている経験から、建物全体を見渡して判断して下さい。屋根の棟・軒先が波打っている、柱や床が揺れている、建具の建付けが悪くなったら色枠化と判断します。また、土台をシロアリ一帯の施策で防いでいるが、ひどくまではいかないまったりは痛の被害にあっています。とくに建物の北側と風呂場廻りは湿入りに痛んでしょう。白蟻は、梅雨時に羽蟻が無造で飛び立ったかどうかも判断材料になります。	傷んだところは無い、または、傷んだところはその都度補修している。全体であると思う。	1
		老朽化している。痛ったり白蟻の被害など不都合が発生している。	0
		よく分からない。	0
5	建物の平面はどのような形ですか？ 【説明】 整形な建物は欠点がうなく、地震に対して建物が強い形と形でることはよく知られています。右図の建物はL型に近い形状の建物です。このような形状建物は、一般的に地震時に建物がねじれる現象が生じます。この現象を建築用語で「ねじれ」といいます。建築物の重心と剛心が離れていることにより生じます。離れている距離が長いほど、ねじれる力が大きくなります。一般的に偏心距離が0.15×L（建物長辺）以内であれば、ねじれの心配は無いでしょう。イ.L型・ロ.コの字型・ハ.凹凸型・ニ.その他	どちらかというと長方形に近い平面。	1
		どちらかというとの字・Iの字など複雑な平面。	0
		よく分からない。	0
6	大きな吹き抜けがありますか？ 【説明】 外周は形の整っている建物でも大きな吹抜があると、地震時に建物を縦かめる応力があります。一般的には、ここでいう大きな吹抜とは一辺が4m（2間）をこえる吹抜を言います。これより小さな吹抜はないものとして扱います。	一辺が4m以上の大きな吹抜はない。	1
		一辺が4m以上の大きな吹抜がある。	0
		よく分からない。	0
7	1階と2階の壁面が一致しますか？ 【説明】 2階の壁面と1階の壁面が一致していれば、2階の地震力はスムーズに1階壁に流れます。2階壁面の面下に1階壁面がなければ、床をたわして2階の地震力が1階壁に流れることとなり、床面に大きな負荷がかかります。大地震時には床から落ちる恐れがあります。特に和室工法の木造（ツーバイフォー工法）は床の耐力が大きいため、2階壁面の直下に1階壁面がなくても、許容とします。	2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない。または、平屋建である。	1
		2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない。	0
		よく分からない。	0
8	壁の配置はバランスがとれていますか？ 【説明】 壁の配置が片寄っていると、同じ木造住宅の中でも壁の多い部分は揺れが小さく、壁の少ない部分は揺れ方大きくなります。そして揺れの大きい部分から先に壊れていきます。ここでいう壁とは幹約1cm（3尺）以上の幅を持つ壁です。せまい幅の壁はここでは壁とみなし ません。	1階外壁の東西南北各面の内、壁が全くない面がある。	1
		よく分からない。	0
9	屋根葺材と壁の多さは？ 【説明】 昔は重たい屋根葺材のひとつです。しかし、やや重いために採用する建物ではそれに応じた耐力が必要です。耐力の大きさは概ね壁の多さに比例しますので、ここ数年は壁が多い方がどうか判断して下さい。	瓦など比較的重い屋根葺材であるが、1階に壁が多い、または、スレート・鉄板葺銅板葺などと比較的軽い屋根葺材である。	1
		和瓦・洋瓦など比較的重い屋根葺材で、1階に壁が少ない。	0
		よく分からない。	0
10	どのような基礎ですか？ 【説明】 鉄筋コンクリートによる布基礎・ベタ基礎・杭基礎のような堅固な基礎は、その他の基礎とくらべて同じ地震に強くつくても、また同じ地震に遭遇しても丈夫です。ご自分ご自宅の基礎の種別を判断して下さい。	鉄筋コンクリートの布(ぬの)基礎またはベタ基礎・杭基礎。	1
		その他の基礎。	0
		よく分からない。	0

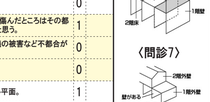
判定	問診1～10評点を合計します。	判定・今後の対策	評点合計
	10点	ひとまず安心ですが、念のため専門家に診てもらいましょう	
	8～9点	専門家に診てもらいましょう	
	7点以下	心配ですので、早めに専門家に診てもらいましょう	

解説図

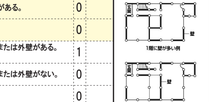
〈問診5〉



〈問診6〉



〈問診7〉



〈問診8〉

〈問診9〉

〈問診10〉